



あかまつ

七飯町立七重小学校
学校だより No.10
R4年2月28日

「意志あるところに道は開ける」～努力！と挑戦！～

七飯町立七重小学校長 本 多 宏 至

「これから小学校最後の学習発表会を始めます。」とはじまりの言葉がアナウンスされ、6年生代表の子供から「ここまで育ててくれてありがとうございます。今の僕たちがいるのも、お父さんお母さんがいるからだと思います。・・・最後の学習発表会、楽しく見てください。」と挨拶がありました。発表の演目として、なわとび、マット運動、クロームブックを使いスクリーンに映し出しながらの発表、得意技の発表（ダンス、サッカーボールを扱うテクニック）、跳び箱、器楽合奏（アンコールもありました。）が披露されました。



発表しているときはもちろんですが、演目の入れ替えや準備など流れるような動きにさすが6年生だなと感じました。学校閉鎖や臨時休業もあり、練習のスケジュールを組み立てることは大変難しかったと思います。当日の態度や行動から、自分たちがイメージしている発表内容に近づけるため、個人練習とともに、仲間と協働して積み上げてきたことがわかります。一人一人が明確な目標をもち、実現に向けて動き出し、創り上げた6年生は大変すばらしいと感じました。「意思のあるところに道は開ける」とはアメリカ合衆国第16代大統領リンカーンの名言ですが、努力を続けなければ、目指すところに到達することはありません。計画を立て、スケジュールの変更を受け入れ、努力を継続してきた結果が、6年生の学習発表会であったと強く感じました。

さて、明日から3月に入ります。3月は弥生とも言います。弥生の語源は、「弥→だんだんと、生→草木が生い茂る」ということから、草木が次第に芽吹く月を表した言葉です。学校は、これまで「わかる・できる・つかえる」力を子供たちには身に付けさせるため、自律・共生・協働を柱に、令和3年度の教育活動を進めてまいりました。学校評価「わかる・できる」全員実感のアンケート項目に対して、児童・保護者・教職員から85%以上の肯定的回答をいただきました。3月を迎える今こそ、進学・進級する子供たちの生き生きとした「芽吹き」に、たっぷりと日の光を当てたいと願っています。

学校の3月は「さあ大変」といわれるほど、アッという間に時間が過ぎ去ってしまいます。学校の中心となって活動してきた6年生はもうすぐ卒業を迎えます。その活躍の様子を見てきたほかの学年も、進級に向けて残り1か月となりました。

3学期のはじまりに、どの学級も一人一人が「なりたい自分」をイメージして目標を立てました。「意志あるところに道は開ける」といっても、思うだけでは「なりたい自分」にはなれません。残り1か月、一人一人が改めて努力と挑戦を繰り返し、目標を達成した充実感をもって、この1年を締めくくれるよう全職員で支援してまいります。